

平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査の結果について

1 調査の概要と目的

平成31年4月、平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査が、これまでの教育活動や教育施策の成果と課題等を把握・検証し、今後の教育活動に生かすことを目的として全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に、悉皆調査として実施されました。

国の調査実施要領で謳われているとおり、本調査で測定できるのは学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面であることなどを踏まえて調査結果を報告するものです。

なお、今年度の調査は、昨年度までの「主として『知識』に関する問題(A)」と「主として『活用』に関する問題(B)」を一体化して「知識と活用を一体的に問う調査問題」としています。また、中学校で英語調査が実施されました。

2 実施状況

(1) 調査実施日 平成31年4月18日(木)

(2) 実施項目

ア 児童生徒に対する調査

イ 教科に関する調査 国語、算数・数学、英語

① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

ロ 質問紙調査

調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

ハ 学校に対する質問紙調査

学校を対象に、指導方法に関する、人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

(3) 実施校数 小学校 35校 中学校 19校

(4) 実施人数 (単位:人)

	国語	算数・数学	英語	質問紙
小学校6年生	3,817	3,817		3,814
中学校3年生	3,364	3,372	3,373	3,366

3 平均正答率一覧表

(1) 藤沢市立小学校平均正答率 (単位:%)

	国語	算数
全国(公立)	63.8	66.6
神奈川県(公立)	61	67
藤沢市(公立)	56	66

(2) 藤沢市立中学校平均正答率 (単位:%)

	国語	数学	英語
全国(公立)	72.8	59.8	56.0
神奈川県(公立)	73	59	59
藤沢市(公立)	75	61	62

※国立教育政策研究所の報告書には、「全国の平均正答率(公立)の±10%の範囲内にあれば、全国と大きな差は見られなかったと考える。」と表記されています。

出典:平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査報告書 令和元年7月 文部科学省 国立教育政策研究所

#### 4 児童生徒に対する調査結果の概要と考察

##### (1) 教科に関する調査について

今回の教科に関する調査においては、国語では、「自分の考えの理由を明確にして読むこと」、「文章に表れているものの見方・考え方について自分の考えをもつこと」について、算数・数学では、「棒グラフの読み取り」や「三角形の合同条件」について、英語では、「情報を正確に聞き取ること」「文の中で適切に接続詞を用いること」について、よく理解できていることが分かりました。

特に、初めて調査が実施された英語では、各技能とも全国の平均正答率を上回りました。このことは、9年間を見通した本市の国際教育運営指針に則り、外国語指導講師（F L T）や国際理解協力員による学校訪問を行うなど、発達段階に応じた国際教育の推進を継続してきたことが、今回の結果につながっているものと考えます。

一方、国語では「書くこと」、算数・数学では「説明すること」、英語では「文と文のつながりに注意して、まとまりのある文章を書くこと」に課題がありました。小学校の国語においては、全国の平均正答率を下回る結果となりました。

これらの結果を踏まえ、学校は、新学習指導要領の主旨を理解し、児童生徒が自ら考え、課題を解決していけるような学習計画を作成することが大切です。小学校における国語については、他教科における話し合い活動や内容理解といった学びの土台となっていることから、文章を理解する力を育むことが大切です。

##### (2) 質問紙調査について

児童生徒の学習意欲や生活の諸側面等に関する質問紙調査では、「自分には、よいところがあると思いますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」「先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思いますか」において、肯定的な回答が多く見られました。自己肯定感や自己有用感についてはおおむね高いと言えます。一方で、中学生になると自己肯定感が下がることから、児童生徒が自己肯定感をもてるような環境づくりが大切です。

起床時刻、就寝時刻、朝食の摂取率など、基本的な生活習慣が身に付いている比率は高く、また、質問紙調査と教科に関する調査のクロス集計においては、基本的な生活習慣が身に付いている児童生徒が学力が高い傾向を示しています。しかしながら、一部に基本的な生活習慣が身に付いていない児童生徒がいることから、学校における児童生徒の基本的な生活習慣の把握に努め、児童生徒一人ひとりに生活習慣の改善や学習習慣の確立に向けて働きかけるとともに、保護者に向けても改善についての働きかけが必要です。

今後もさらに、児童生徒が自分自身の良い面に目を向け、自信をもって意欲的に学習に取り組めるよう、全ての教職員が児童生徒のよさを認め、大切にし、日々の教育活動に取り組ませることが大切です。

## 5 各教科における調査結果

### 【小学校 国語】

#### (1) 特徴

<おおむね理解しているとみられる内容>

- (資料として用いられている) 図表やグラフなどを用いた目的を捉えること
- 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えの理由を明確にしながらかくこと

<課題があるとみられる内容>

- 目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くこと
- 話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめること
- 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと

#### (2) 授業改善のポイント

- 目的や意図に応じて自分の考えをまとめて書くためには、事実と考えとを区別して書いたり、理由を明確にして自分の考えをまとめたりすることが大切です。例えば、調べたことを報告する文章を書く場合、「調査の目的や方法」「調査の結果とそこから考えたこと」等で構成し、内容を分けて書くようにさせます。指導する際には、調べたことを付箋などに書き出して情報を視覚化して整理したり、「分かったこと」と「考えたこと」とが結びつくかを確かめたりしながら、事実と考えの違いに着目して、まとめていくことが有効です。
- 話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめるためには、インタビュー等の目的を明確にもったうえで、相手からどのような情報を聞き出し、その情報をどのように活用するのか整理していく必要があります。また、自分もっている情報と関係づけて、分からないことを問い返したり、相手の話につなげてさらに詳しく問うたりする力も必要です。指導に当たっては、児童が必然性を感じる話題や、実際に学習の成果を生かせる場を設定し、児童自身が身についたことを自覚できるように振り返りを行うことが大切です。
- 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく使うためには、日常的に文や文章の中で適切に使うことができるように指導することが大切です。そのためには、新出漢字を読み方や字形に注意して繰り返し練習することにとどまらず、漢字のもつ意味を考えながら、文や文章の中での正しい使い方を習得することが効果的です。特に、同音異義語の学習指導に当たっては、同じ音からいくつかの熟語を思い浮かべ、それぞれの意味を考えて文脈にふさわしい熟語を選んで書くことができるようにすることが大切です。
- 授業においては、各領域の力をバランスよく育むことが重要です。国語の力を高めるために、日常的な辞書の活用や教科書教材文の学習から幅広い読書活動につながる単元計画など、豊かな言語環境を整えることが大切です。

## 【小学校 算数】

### (1) 特徴

<おおむね理解しているとみられる内容>

□棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取ること

□示された減法に関して成り立つ性質を基にした計算の仕方を解釈し、適用すること

<課題があるとみられる内容>

■示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述すること

■加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすること

■示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述すること

### (2) 授業改善のポイント

○図形の面積を求める学習においては、合成や分解など図形の構成についての見方を働かせ、既習の公式を活用して面積を求め、その求め方を自分の言葉で説明できるようにすることが大切です。指導に当たっては「20-4の引くはどのようなことを表していますか」など数や演算の意味を学級全体に問いかけ、図形と式を関連付けて説明し合うような活動が有効です。また、筋道を立てて考察し表現できるようにすることも効果的です。

○加法と乗法の混合した整数と少数の計算をする際には、計算の順序についてのきまりを単に暗記するだけでなく、具体的な場面と関連付けながら確実に理解できるように指導することが重要です。例えば、本調査の2(4)で取り上げられている式、「 $6 + 0.5 \times 2$ 」について、式の左から順に計算した場合と、計算の順序についてのきまりを基に正しく計算した場合とを、具体的な場面と関連付けながら比較し、計算の順序を誤ると式の意味が異なってしまうことに児童が気づけるようにすることが大切です。

○計算の仕方を解釈し、表現するためには、商に適用する数の範囲を広げていながら統合的・発展的に考え、計算に関して成り立つ性質を見だし、表現できるようにすることが重要です。指導に当たっては、児童が具体的な数を用いて表現した場合に「他の数の場合でも成り立つか」「どの数でも当てはまるようにまとめるとどうなるか」などと問い返ししながら、児童自らが見いだした性質を一般化して表現しようとする態度を育てることが必要です。その際、算数の用語を適切に用いて表現できるようにすることも大切です。

○「言葉や数を使って書きましよう」「求め方を言葉や式を使って書きましよう」のように、自分の考えを記述する問題において無回答の多さが目立ちました。授業の中で、用いた数や式にどのような意味があるのかを考え、相手に伝わるように表現しようとする態度を育てることが必要です。

## 【中学校 国語】

### (1) 特徴

＜おおむね理解しているとみられる内容＞

- 文章に表れているものの見方や考え方について自分の考えをもつこと
- 話し合いの話題や方向を捉えること

＜課題があるとみられる内容＞

- 封筒の書き方を理解して書くこと
- 話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつこと
- 文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつこと

### (2) 授業改善のポイント

- 封筒の書き方を理解して書くためには、小学校での学習を想起するだけでなく、手紙の形式に込められた相手への敬意についても考えさせる学習がより有効となります。また、書式に合わせて、適切な字体や書体で書くなど書写の能力を広く活用したり、総合的な学習の時間における学習と連携を図り、「案内状を書く」「お礼状を書く」などの具体的な活動を通して、生活に役立てようとする態度を育てたりすることも実践的な力として定着を図ることにつながります。
- 話し合いの活動の中で、話題や方向をとらえ自分の考えをもつためには、誰と何について話し合うのか、何のために話し合うのかを理解することが大切です。指導に当たっては、生徒が話題について確認したり、経過をとらえたりすることができるよう指導することが重要です。また、言語活動を通して、他の人の話を聞きながら必要に応じて質問し、自分の考えとの共通点や相違点を整理するように指導する等、話し合いの中で出た意見を広げる、一つにまとめるなど目的に応じて方向をとらえ進めていくことも有効です。
- 文章の構成や展開、表現の仕方について自分の考えをもつためには、文章の特徴を把握し、内容を的確に捉える力が必要です。指導に当たっては、これまでの読書経験や体験などを踏まえ、内容や表現を、想像、分析、比較、対照、推論などによって相互に関連付けて読むように指導することが有効です。その際、生徒自身が目的意識をもって文章を読み、必要な情報を整理することができるように指導を工夫することが重要です。
- 全体的な傾向として、文章を読み自分の考えをもつことはできています。さらに、話し合いの内容をとらえて考えをもつことや、考えを文章で表現できる力を育ていけるよう、各領域において思考ツールなどを用いて、生徒自身が自分の考えを形成できる学習過程を展開することが有効です。

## 【中学校 数学】

### (1) 特徴

<おおむね理解しているとみられる内容>

- 平行移動の意味を理解すること
- 証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解すること
- 反例の意味を理解すること

<課題があるとみられる内容>

- 反比例の表から、 $x$ と $y$ の関係を式で表すこと
- 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること
- 資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること

### (2) 授業改善のポイント

- 反比例の表から、 $x$ と $y$ の関係を式で表せるようにするためには、表と式を関連づける活動を取り入れることが有効です。反比例の表から、 $x$ の値とそれに対応する $y$ の値の積が常に一定の値になり、その値が比例定数であることを確認するなど、表から式を求めることが大切です。例えば、正多角形の頂点の数と正多角形の1つの外角の大きさについて表にまとめ、関数関係にあると捉える中で積が一定であることを見だし、反比例の式に表す活動も考えられます。
- 事象を数学的に解釈し、解決方法を説明できるようにするためには、具体的な場面において事象を理想化したり、単純化したりして数学の問題として捉えることが大切です。例えば、問題解決の方法について見通しを立て、求めた数学的な結果を事象に即して解釈する活動を取り入れることが考えられます。グラフを用いることにより一目でわかることや、式を用いることで正確な値を求めることができることなど、グラフや式を使って問題解決するためのそれぞれの方法のよさを実感できるようにすることも有効です。
- 資料の傾向を的確に捉え、批判的に考察し判断するためには、代表値を求めたりデータの分布の様子を読み取ったりする場面を設定し、多面的に吟味し、よりよい解決や結論を見出すことが必要です。また、判断したことを説明するためには、データの分布の特徴を捉えて、説明すべき事柄とその根拠を明確にすることが大切です。目的に応じてどのような代表値を用いるべきか等、考察する活動を取り入れることも有効です。
- 学びを深めるためには、数学的な活動を通し、見方・考え方や知識などを価値あるものとしてまとめていく「振り返り」が大切です。そこから、日常生活や社会の事象における問題に対して、数学的な考えを取り入れることのよさや価値を実感したり気づいたりできるようにしていくことが有効です。

## 【中学校 英語】

### (1) 特徴

<おおむね理解しているとみられる内容>

- 語と語の連結による音変化をとらえて、情報を正確に聞き取ること
- 日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものの内容を、正確に読み取ること
- 文の中で適切に接続詞を用いること

<課題があるとみられる内容>

- 聞いて把握した内容について、適切に応じること
- 書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や聞き手の意見などをとらえること
- 与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くこと

### (2) 授業改善のポイント

- 聞いて把握した内容について、適切に応じるためには、日ごろから、しっかりと聞く目的を持ち、聞いた内容を理解することが大切です。場面設定を工夫し、話し手がどのような人で、何を求めているか、その場面でどのような応答がふさわしいかを考え、それを踏まえて自分の考えや意見を表現できるよう指導することが有効です。
- 書かれた内容や書き手の意見などをとらえて、自分の考えを示す際には、読み手として主体的に考えたり、判断したりしながら理解し、自分の考えを整理する必要があります。そのために、領域間の統合的な言語活動を工夫し、自分の考えを持ちながら読む力を育てることが重要です。指導の例として、教科書などに取り上げられている説明文を読んで、書き手の主張を数文でまとめたり、ペアやグループで伝え合ったことを、自分の意見として簡潔に書いてまとめたりするなどの言語活動が考えられます。
- 与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くためには、「自分の主張→主張を支える根拠や具体例」という構成で書くなど、文章形式を示して言語活動を行うことが有効です。また、「話して書く」「読んで書く」等の領域を統合した言語活動や、何をどのように書けばよいか、内容、文章構成、語彙等、生徒が表現する際の課題に合った手立てを考えることが大切です。
- 「聞いたことを基にして書く」「読んだことを基にして書く」という技能統合の問題では無回答率が高い傾向がみられました。領域間の統合的な言語活動の工夫で、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」「話すこと」の4技能を関連付けながらバランスよく力を付けることが重要です。

## 6 児童生徒質問紙調査に関する調査結果と特徴

※児童生徒質問紙にある質問項目のうち、本市の児童生徒の学力と関連のある質問項目について取り上げています。

※児童は「小学生」、生徒は「中学生」を表しています。

※時間数を問う設問を除いて、「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」と回答した比率を合計しています。

### (1) 結果

	質問項目	児童	生徒
学習に関する 関心・意欲等	国語の勉強が好き	58.9%	59.9%
	国語の勉強は大切だ	91.8%	88.4%
	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ	89.5%	86.3%
	国語の授業で学習したことを、普段の生活の中で、話したり聞いたり書いたり読んだりするときに活用しようとしている	72.5%	67.8%
	算数〔数学〕の勉強が好き	66.9%	55.6%
	算数〔数学〕勉強は大切だ	93.2%	78.1%
	算数〔数学〕の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ	91.7%	68.1%
	英語の勉強が好き		56.5%
	英語の勉強は大切だ		85.9%
	英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ		86.8%
	今まで受けた授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていた		88.5%
課題解決学習	今までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	76.0%	74.1%
	今まで受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫した	63.2%	63.7%
	級友との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができた	68.8%	69.4%
生活	朝食を毎日食べている	95.8%	93.3%
	就寝時刻が毎日ほぼ同じ	81.2%	74.8%
	起床時刻が毎日ほぼ同じ	90.3%	90.9%
	家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をする	76.7%	76.3%
	今住んでいる地域の行事に参加している	59.4%	38.3%



学習習慣・ 学習時間	読書は好き	70.4%	65.8%	
	家で、自分で計画を立てて勉強をしている	67.0%	46.4%	
	平日に学校以外で 勉強する時間	2時間以上	31.6%	49.7%
		1～2時間	25.7%	24.6%
		30分～1時間	23.7%	12.2%
30分より少ない少ないか全く しない		18.9%	13.6%	
その他	自分には、よいところがあると思いますか	82.9%	73.4%	
	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると 思いますか	82.8%	78.0%	
	学校のきまり〔規則〕を守っていますか	89.2%	96.3%	
	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	94.1%	93.5%	

## (2) 特徴

### 「学習に関する関心・意欲等」

- ・教科学習を「大切だ」と考える児童生徒が80%前後と多いにもかかわらず、教科学習を「好き」と回答した児童生徒は60%前後である。
- ・国語、英語の教科学習で学んだことを実生活に結び付けて考えられる児童生徒は、約86%～90%である。
- ・算数・数学の教科学習で学んだことを実生活に結び付けて考えられる児童生徒は、昨年度より上昇し、児童が約92%、生徒が約68%である。
- ・今回調査が行われた英語では、授業においてスピーチやプレゼンテーションなど、多くの生徒が学んだことを生かし、伝え合う活動を経験している。

### 「課題解決学習」

- ・自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表する等の学習活動の取り組みが進んでおり、伝えたり話し合ったりする中で、学びを深めている。

### 「生活習慣」

- ・起床時刻や就寝時刻、朝食の摂取率など、基本的な生活習慣は身に付いており、昨年度と比べても良い傾向を示している。

### 「学習習慣・学習時間」

- ・多くの児童生徒が、平日に学校以外で学習に取り組んでいるが、30分以下の児童生徒も約14%～19%いる。

### 「その他」

- ・「自分に良いところがある」と回答した児童は約83%、生徒は約73%であり、児童生徒の自己肯定感は、おおむね高いと言える。
- ・「人の役に立つ人間になりたい」と回答した児童生徒の割合が約95%であり、児童生徒の自己有用感、高いと言える。

## 7 今後の教育活動に向けて

新しい学習指導要領の全面実施に向けて、小中学校ともに「主体的・対話的で深い学び」の視点から、学校全体での授業改善を目指し、授業の充実を図ることがより重要です。

さらに、小中合同の研修や教職員同士の交流の活性化を図り、9年間を見通した教育連携の充実を図っていくことが大切です。

### (1) 教育委員会における今後の取組

ア 今年度の全国学力・学習状況調査の結果について、校長会等で各学校に周知します。また、教育委員会のホームページで公開し、広く保護者・市民の皆様へも情報提供します。

イ 本市の児童生徒は、自分の考えを書くことや説明することについて、課題が見られることから、改善に向けた工夫や取組の必要性を学校に対して働きかけるとともに、小中の連携を図るよう努めます。

ウ 新学習指導要領で求められる「主体的・対話的で、深い学び」への授業改善の視点をもとに、一人ひとりの資質・能力の向上を図るための「わかる授業づくり」に向け、指導主事が各学校への計画訪問や要請訪問を通して、授業づくり等について指導を行います。

また、教員のキャリアステージごとの経験者研修を実施し、キャリアステージに応じた教員の資質と指導力の向上を図ります。

エ 教育文化センターにおいて、授業力向上にむけた「授業づくり」研修講座や「教科・領域」研修講座等を開催し、教員のスキルアップを図ります。

オ 教科に関する調査の結果と質問紙調査の結果をクロスした結果によれば、好ましい生活習慣の確立は、学力と密接な関係があることがわかりました。基本的な生活習慣や学習習慣の定着を目指し、計画的に家庭学習に取り組んでいくことができるよう、保護者に向けて、家庭での時間の使い方の改善について働きかけを行います。

### (2) 学校における今後の取組

ア 全国学力・学習状況調査の結果を分析し、学校全体で結果を共有します。その際、学年会、教科会において児童生徒の課題となる点を話し合い、チームで授業実践を行っていきます。また、課題については指導計画等に反映させます。

イ 児童生徒への質問紙調査によると、教科学習を大切だと考える児童生徒が80%前後である反面、教科学習を「好き」と回答した児童生徒は60%前後という状況から、児童生徒が教科学習に興味・関心をもち、すべての児童生徒にとってわかりやすい授業・たのしい授業づくりをめざし、資質・能力の向上を図ります。

ウ 学力調査の取り組み方についての質問紙で、「最後まで解答を書こうと努力した」という回答が8割程度となっており、課題の解決に向けて自分で考えたり、自分の考えが伝わるよう工夫したりする姿勢が見られました。引き続き、どの教科・領域等においても、児童生徒が主体的に学習に参加し、対話を通して自分の考えを広げたり深めたりすることができる授業づくりを進めます。

- エ 全校に学習用タブレットPCや無線LANが整備され、ICT環境が整いました。新学習指導要領で求められる「主体的・対話的で深い学び」や「わかりやすい授業」の実現に向けて、ICT機器を適切に活用して学習活動の充実を図ります。
- オ 児童生徒一人ひとりが自分にあった学習方法を見つけ、自分で計画して自学自習を進められるよう、学習の手立て（学習の方法）を指導します。また、学校における児童生徒の基本的な生活習慣の把握に努め、生活習慣の改善や学習習慣の確立に向けて、児童生徒一人ひとりに働きかけるとともに、保護者に向けても改善についての働きかけを行います。